

※保護者の方へ：必ず読んでから接種してください。

B型肝炎ワクチン予防接種を受けるにあたっての説明

1. B型肝炎の病気・症状について

ウイルス性肝炎には現在、A、B、C、D、Eの5つの型が知られています。B型肝炎ウイルス感染には一過性感染と持続感染があります。宿主の免疫状態が十分であれば一過性感染で、感染肝細胞は破壊され、ウイルスは排除されて治癒し、終生免疫を獲得できると考えられてきましたが、近年、感染したB型肝炎ウイルスが肝臓に潜伏し、免疫抑制療法や化学療法で再活性化して肝炎を発症することが報告されています。

急性肝炎の症状は、黄疸、全身倦怠感、食思不振、悪心、嘔吐などで、多くは3か月以内に治癒しますが、0.4～1%は劇症肝炎を発症し、予後がよくありません。一方、母子感染で新生児期に感染を受けると、ウイルスは長期にわたって肝細胞内に生存する持続感染（キャリア）となり、肝硬変から肝臓に進展するおそれがあります。

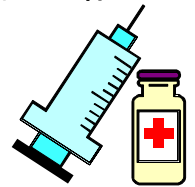
2. B型肝炎ワクチンの有効性と副反応について

酵母由来のリコンビナントワクチンで、母子感染予防、HBV陽性血液での針刺し事故や水平感染予防にも使用されています。これまでの成績では10%に副反応が認められ、主な副反応は倦怠感、頭痛・頭重感、発熱、局所の疼痛、腫脹、硬結、熱感などがあります。乳児についても問題はなく、一般的に重大なものは認められていません。

《B型肝炎ワクチン予防接種対象年齢》 平成28年4月以降に生まれた生後1歳に至るまでの者

一般的な感染予防スケジュール（標準的な接種期間）

- 1回目：生後2か月から生後3か月に至るまで
- 2回目：生後3か月から生後4か月に至るまで（1回目から4週あける）
- 3回目：生後7か月から生後8か月に至るまで（1回目から20～24週あける）



B型肝炎ワクチン接種方法について

- ◆B型肝炎ワクチンは皮下接種（皮下に注射）で、合計3回の接種が必要です。（接種量は毎回0.25ml）
- ◆一般的な感染予防スケジュールとして、4週あけて2回接種し、1回目から20～24週あけて3回目を接種。
- ◆既に任意接種としてB型肝炎ワクチンの接種を受けたことがある場合は、その回数分を定期接種として受けた回数とみなします。

3. 接種にあたっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行うことが原則です。お子様の健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談のうえ、接種するか否かを決めてください。また、お子様が以下の状態のときには予防接種を見合わせてください。

- ①明らかに発熱（通常37.5℃以上をいいます）があるとき
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかなとき
- ③本剤の成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかなとき
- ④3ヶ月以内に輸血・ガンマグロブリンを注射している場合
- ⑤その他、医師が不適当な状態と判断した場合

4. 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

健康被害の程度に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

※給付申請の必要が生じた場合には、湯沢市子ども未来課へご連絡ください。

〈接種後の注意〉

- ① 予防接種を受けた後30分間は、実施場所でお子さんの様子を観察しましょう。
- ② 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすらないようにしましょう。また、激しい運動はさけましょう。
- ③ 予防接種後1ヶ月間は、抜歯・扁桃腺摘出術・ヘルニア手術等は原則としてさけることが望ましいといわれています。

問い合わせ 湯沢市子ども未来課（こども家庭センター）
子ども子育て応援班 電話：55－8275